



Soto-Zen Jyousenji

浄泉寺報

第 3 号

新年明けまして

おめでとう

ございます

檀信徒の皆様には輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、喪中にて新年を迎えられましたご家庭には、本年がよい年となりますよう心からお祈り申し上げます。

更に檀信徒の皆様には、日頃より浄泉寺の護持等に格別のご高配を賜っておりますこと、年頭にあたり改めて厚く御礼申し上げます。

昨年は、この寺報の発刊、ホームページの開設。そして、花祭りと送り盆の二回の音楽イベントの実施など、新たな寺院運営の基本を「地域と檀信徒の皆様との交流を大切にする地域コミュニティの場づくり」として取り組みました。また、檀信徒の皆様への心の安らぎの場づくりとしては、御詠歌講の充実、坐禅会や写経会の開催を毎月いたしました。しかしながら、初めての試みでもありますので、必ずしも十分とは言えず、特に坐禅会は、日曜日の早朝ということもあり参加者が少ないのが実情でありました。働く若い人たちにも参加できるようにと日曜日にしたのですが、日曜日は、ゆっくり休みたいとの意見もあり、時間については、更に検討

してまいりたいと考えております。檀信徒の皆様には、是非このような寺の取り組みに積極的にご参加いただき、また様々なご意見をいただけたらと思います。

さて、本年についてでございますが、昨年に引き続き幾つかの反省点を踏まえながら、同様の事業を実施してまいりたいと考えております。音楽等のイベントは、四月の花祭り、お盆の万燈会そして秋の観月会等三回くらい実施したいと考えております。その節はご案内申し上げますので是非ともご参加ください。

更に本年は秋に浄泉寺ゆかりの寺である小田原の大雄山最乗寺開基六〇〇年大遠忌が予定されておりますことから、一泊二日の参拝旅行なども計画する予定であります。こちらも是非ご参加いただければと思います。

また、祠堂整備につきまして、永年の風雪により、本堂の屋根瓦の葺き替えの必要が生じていることから、これの実施を予定しております。

おわりに、ご家族様の皆様のご健勝を心からお祈り申し上げます。

住 職 合 掌

当面の行事等

1月 1日 檀信徒初詣

午前9時から午後4時まで

1月 8日～9日

浄泉寺本寺 大雄院（日立市）開山忌

1月11日 総代・世話人会 午前11時30分

2月15日 涅槃会（お釈迦様の忌日法会）

3月18日～24日 春彼岸会

4月10日 降誕会（お釈迦様の誕生日・花祭り）

午前10時 本堂 イベント実施（後日お知らせ）

※ お子様方をつれて、甘茶をかけにお願いいたします。夕方までお参りができます。お子様にはお菓子などを用意します。

瑩山禪師と総持寺

瑩山禪師

大本山総持寺開祖瑩山禪師様（一二六八年～一三二五年）は、曹洞宗開祖道元禪師の示寂後、およそ十五年、鎌倉時代の末期に越前で生まれました。瑩山禪師は、道元禪師から第四代目の祖師で、その師は永平寺第三代大乘寺開山義介禪師。そのまた師が、永平寺第二代道元禪師の最高弟懷奘禪師でありました。

母は明智優婆夷といい、道元禪師が中国から帰国後、京都の建仁寺に仮遇していたころの女性の弟子であり、いわば祖母を通じて道元禪師とは仏縁があったわけで、強い宿縁が感じられます。母と祖母は、共に熱烈な観音信者であり、その感化もあって、建治元年、八歳の時、祖母に手を引かれ、永平寺第三世義介禪師のもとで出家得度して弟子となりました。更に十三歳のとき、義介禪師の勧めで懷奘禪師の最後の弟子にもなりました。したがって道元禪師とは、面識がありませんが、禪師の高弟二人と深い仏縁を結ぶことができました。二十二歳のとき、義介禪師に従って永平寺を去り、加賀の大乗寺に移りました。そこでひたすら坐禅修行の日々を重ね



大本山総持寺開祖 瑩山禪師

二十七歳のころ「平常心是道」という禪の公案（課題）を学んでいるとき、ついに悟りを開き、義介禪師から認められました。平常心是道とは、平常の心（ありのまま、素直な心）こそ仏道の真髓であり、この心無くして本当の幸せは無いということ。二十六歳で阿波の国に城万寺を開き、多くの弟子に戒を授け、その後三十五歳で義介禪師の開いた大乘寺第二世の住職となり、「伝光録」や「坐禅用心集」などを著しました。



大本山総持寺太祖堂

正中二年（一三二五年）、総持寺を弟子の峨山禪師に一任し永光寺に帰り、数え五十八歳で示寂しました。

大本山 総持寺

開山は、瑩山禪師。元亨元年（一三二一年）真言宗の定賢権律師から諸岳観音堂を寄進され、寺号を山号に改め、諸岳山総持寺と称えて、禅院としました。もとは石川県輪島市にありましたが、明治三十一年（一八九八年）に焼失したため、明治四十年（一九〇七年）、横浜市鶴見区に移転しました。寺域は約三十万平方メートルで、数十の葺が建ちならび多くの修行僧を擁しています。

石川県の旧址は、間もなく復興され、総持寺祖院と称し、瑩山禪師の祖廟としての面目を堅

持しています。

鶴見の総持寺のある場所は、永平寺と違って国際都市横浜の丘陵地帯であります。山の永平寺に対して街の総持寺ということになり、両大本山の性格と使命が、対象的な好一対としてよく表れています。

主要な建物は、山門・仏殿・法堂・僧堂・庫院・浴室・東司のいわゆる七堂伽藍でありますが、この内、法堂は、総持寺の場合太祖堂と呼んで、独特であります。間口五四・五メートル、奥行き四七・二メートル、地上・地下

各一階、床面積六、六一一平方メートル、畳数千枚、地盤から棟の上端まで三六メートルという大伽藍であります。他に伝灯院（瑩山禪師御廟）、放光堂（檀信徒の位牌をまつる堂）、常照殿（檀信徒の納骨堂）、御霊殿（後醍醐天皇、南朝八代の天皇をおまつりする）、紫雲台（住持が全国

の寺院住職や檀信徒、貴賓と公式に面接する部屋）、跳竜室（住持が賓客と接見する部屋）、天真閣（客殿）、待鳳館（客間）、三松閣（檀信徒の研修道場）、衆寮、勅使門などがあります。

仏教では、二月十五日の「涅槃会」、四月八日の「降誕会」、十二月八日の「成道会」を三仏忌として法要を営み、お釈迦様の偉徳を讃えます。その中から今回は、「涅槃会」と「降誕会」のお話をします。

涅槃会

お釈迦様はヒマラヤのふもとカピラ城にお生まれになり、二十九歳で出家し、三十五歳で悟りを開かれました。それから四十数年間、ガンジス河流域を中心に、北インドの町から村へと教えを説き歩かれました。そしてすでに八十歳を迎えられたお釈迦様は、自らの最期のときが近づいたことを察し、商業都市ヴァイシャリーの町から最後の地クシーナガラへ向かうために、ガンジス河を渡られました。やがてクシーナガラ近くの



釈迦涅槃図（浄泉寺蔵）

かかられたのです。あるいは赤痢だったのかも知れません。それでも苦痛をこらえながら、阿難たちの助けを借りてやつとクシーナガラに入られた釈尊は、マツラ族のウパヴァッタナのサーラの樹林に入られました。「阿難よ、私のためにサーラ双樹（沙羅双樹）の間に、頭を北に向けて床を敷きなさい。私は疲れた。横になろう」と床を敷かせ、「この世で常住なるものは何もない。これが世のすがたなのだから、精進して早く生死の苦悩から解脱しなさい」と最後の教えを弟子達に告げられ、右脇を下にし、足を重ねて横になり、禪定に入られたまま、涅槃に入られました。時、まさに二月十五日の夜半でした。

付き従う人たちの悲しみと歎きは、いかばかりであったか。仏典には「その時、大地が震動

し、人々の身の毛がよだち、天上では自然の音楽が鳴った」とあります。

この二月十五日に「涅槃会」法要を営み、お釈迦様の偉徳を讃えるのです。

この行事には「涅槃図」を掲げますが、そこには人間だけでなく、鳥や獣、虫に至るまでが涅槃に入られた釈尊の回りに集まり、歎き悲しんでいる様子が描かれています。

「涅槃」という言葉は梵語の「ニルヴァーナ」の音訳で、元、吹き消すという意味です。すなわち、迷いや煩惱の炎を吹き消すことで、もはや悩みも苦しみもない世界に入ることです。



降誕会（花まつり）

降誕会とはお釈迦さまがお生まれになった日で、仏生会、灌仏会などともいいます。また「花祭り」という名でも親しまれております。

インド、カピラ国の浄飯王の后、マヤ夫人は四月八日の朝、

今を盛りと咲き誇る無憂樹の花のもとで王子をお産みになりました。

花御堂というのはこの花園をかたどったものです。また甘茶を誕生仏にそそぐのは、お釈迦さまが誕生された時、天から龍王が下って清浄な甘雨をそそぎ、洗い浄めたという故実にちなんでいます。

毎年四月八日、お釈迦さまの誕生日をお祝いするために、花御堂を飾り、甘茶を容れた甘露盤の中に「誕生仏」を安置し、小さな柄杓を備え、お像の頭上より甘茶をかけてお祝いするのです。

昔から仏像を灌仏する功德は廣大であるとされ、早くよりインド・中国で行われ、日本では推古天皇十四年（六〇六）元興寺で行われたのが灌仏会の起源といわれます。後に恒例の儀式となり、宮中や全国の寺院でそれぞれ行われるようになったのです。

また甘茶は本式には香湯を用い、桃・李・松・柏・柳の五木に、香木（白檀、沈香の類）を加えて煎じるといわれます。



誕生佛（浄泉寺蔵）

しかし香湯を作るのは大変手間がかかる上、飲みものには適さないのです。昔の僧が工夫し、灌仏のあと参詣者がこれを頂くところに花祭りの無量の意義を感じ、甘茶で代用するようになったと思われます。

甘茶といってもお茶の種類ではなく、山アジサイの一種です。生の葉は苦くて甘みはありませんが、八月ころに葉を採り、一晩ねかせ、ムシロに広げて、よく揉みあげて陰干しにすると甘味が出て、甘茶になるのです。

甘茶に甘みを増すために、漢方薬のカンゾウを用いる所もあります。

浄泉寺では、昨年から四月八日に近い土曜日から日曜日に花まつりのイベントを開くことになりました。今年は四月十日（土）に開催いたします。詳細のご案内は、後日いたしますので、ご期待ください。



本堂瓦志納のお願い

永年の風雪に本堂の瓦が相当傷んでおります。そこで本年に瓦の葺き替えを行いたいと考えております。

つきましては、檀信徒の皆様への割り当てる寄付勧募は行わず、有志の瓦志納勧募を行いますので、ご協力をお願いいたします。

瓦志納 一枚 二千元

ご家族の皆様も含め複数枚のご協力をお願い申し上げます。(工事前に志納された方には、一枚ずつ願い事・お名前等を瓦に墨書いたします。)

篤志

成田市飯田町の檀信徒総代の石原門平氏から、本堂用の椅子二十脚が、寄贈されました。有難うございました。



寄付された椅子

大切に使用させていただきます。

各種講座等のご案内

◎梅花流 (曹洞宗) 御詠歌講

梅花流詠賛歌は、曹洞宗の御詠歌・和讃です。

詠賛歌を学んでいくと自然に安らかな気持ちになり、正しい生き方を実践することができま

す。そして生きるための希望と生きていくことへの感謝の心で幸福になります。どうぞお気軽にご参加ください。

毎月第三土曜日

午後二時から午後四時まで

◎坐禅会

曹洞宗の信仰生活の中心は、坐禅です。仏法を味わい、自己をみつめることができます。

毎月第一日曜日

午前六時から午前八時まで

◎写経会

最も簡単な仏道修行であり、心身を調え、静に落ち着いた時間を大切に祈りや願いを生活に活かすことのできる写経を、是非始めてみませんか。

毎月第三日曜日

午後二時から午後四時まで

※これらの講座は、日時が変更となる場合がありますので、お問い合わせください。

永代供養墓のご案内



様々な理由により個別にお墓を建立することが困難な方のための永代供養墓です。永代供養の期間や方法について、多様な契約をご用意しております。

■ご夫婦向け 六〇万円

■個人向け 二〇万円

※墓前供養・納骨・字彫り込み

ペット納骨塔のご案内

家族の一員として過ごした大切なペットのやすらぎの場として浄泉寺墓苑の一角に供養等を用意しました。

■合 祀 一万円より

■個別安置 五万円より

※合祀の場合、墓誌に名前等を刻む費用(一霊五千元)が、

別途がかかります。

※お問い合わせ

してください。



追善供養の意義について

あなたが、今は亡きお方の一周忌に、ふと思い立って、お寺にお願いし、読経供養をします。その時、僧侶の読むお経の厳かさに(たとえその意味は分からなくても)、厳肅な気持ちになり、姿勢を正しくしようと思ったり、また読経の前後、住職の話を聞いて、(仏教とはこういう有り難い教えなのか)と思ったとしたら、どうでしょう。それは法事が、あなた(施主)にとって善い縁となり、さらには仏教を信仰する仏縁となったことを意味します。

亡き方の為にすることは、自分の為にすることでもあるのです。では、あなたの善行は、確かに亡き方に届くのだろうか、という疑問が残ります。

思ってみてください。亡きお方は、あなたが法事をして、それによって心を仏の教えに向けることを願っていないか、どうか。そのお方は、あなたが善い生き方をするのを願わないはずはありません。

たとえ、ふとその方の冥福を

祈りたいと思ったにせよ、それが縁となって、あなたが仏教を信仰するようになったとすれば、亡き方は、あなたが善いほうに助け、またあなたのほうも同時にその方を喜ばせることができるのです。つまり、生と死を隔てようとも、あなたとその方とは互いに助けあつて、仏縁を結ぶわけですから、追善の功德は、確かに故人に届いている、といつてもいいではありませんか。

いずれにしても、生者は死者と共に生き、死者もまた生者と共に生きる、といえるのではないのでしょうか。

やすらぎは

ご先祖の供養から

平成二十二年 年回表

一周 忌	平成二十一年
三 回 忌	平成二十年
七 回 忌	平成十六年
十三回忌	平成十年
十七回忌	平成六年
二十三回忌	昭和六十三年
二十五回忌	昭和六十一年
二十七回忌	昭和五十九年
三十三回忌	昭和五十三年